CRAFT POINT KYOTO

京都伝統工芸地図

Kyoto Kougei Trip | issue NISHIJIN

ISSUE 西陣

雨降っても傘要らない。

西陣織の産地・西陣を例えるものにこんな表現があるが、実際に町を歩けばよくわかる。軽自動車一台がやっと通れるほどの路地の両側に、織屋さんや染屋さんなどの工房や卸問屋が肩を寄せ合うようにして並んでいる。注文や納品といった日々の用事は、たいてい軒下をつたって行けばできる。それほど密集しているのだ。

堀川通りの西陣織会館を起点に、西へ向かって縦横無尽に伸びる路地を歩いてみよう。ここ一帯で製織業に携わる人は現在2,000人ほどだが、彼らの大半が今も職住一体の暮らし。路地で声を掛け合う人びとの姿や登下校する子どもたち、またお昼時には職人のお腹を満たすべく仕出し屋さんが宅配する光景も見られるかもしれない。かつてのようにそこら中から織機の音が聞こえる、といったことはなく、格子窓の向こうはイメージしにくいけれど、この界隈を歩くことが工場見学そのものだ。路地を抜けて、西陣の繁栄とともに発展した千本通りや花街・上七軒へ向かう。古い喫茶店やご飯屋さんの佇まいに、かつては20,000人規模だったという町の賑わいが今も感じられるはずだ。

京都の伝統産業
Traditional Industries of Kyoto

@densannohi

主催：京都市、京都伝統産業ミュージアム（株式会社 京都産業振興センター） https://kmtc.jp/

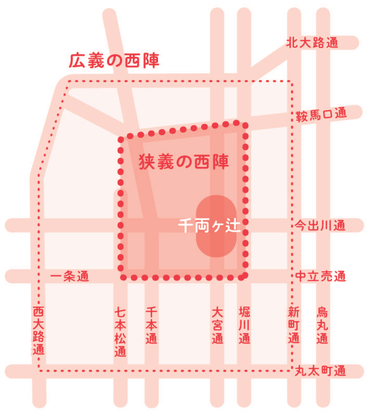
京都伝統産業ミュージアム
Kyoto Museum of Crafts and Design

オープンファクトリー（又は工房併設の店舗）　工房（原則、訪問不可）　お店・ショップ ギャラリー　観光・街歩き 文化施設

※ 見学・体験などを目的に訪問できる工房（オープンファクトリー）についても、事前に、事業者へ必ずお問い合わせください。

西陣はどこから、どこまで？

京都を代表する地名のひとつ「西陣」。行政区画ではない地名が世界に名を馳せているのは全国的に見てもめずらしく、明確な境界線を持たないゆえにその認識は人それぞれ。千両ヶ辻と呼ばれる今出川大宮を中心に東は堀川通、西は七本松通、南は中立売通、北は鞍馬口通に囲まれた狭い範囲を指すこともあれば、新町通から西大路通、丸太町通から北大路通までの広い範囲を指すことも。その境界の曖昧さは、人と人との結びつきがつくり上げた織物産業の広がりを表すかのよう。現在も発展を続けるこの地では、地理的な認識以上に歴史や文化に魅せられた人々の憧憬と畏敬の念が西陣というひとつの地域を形づくっているのだろう。



この地域の主な伝統産業

西陣織

5〜6世紀頃、豪族・秦氏が養蚕と織物をはじめたことに起源し、15世紀応仁の乱の後に基盤を築く。西陣織は極めて多種多様で、綴、綿、緞子（どんす）、お召、絣、天鵞絨（ビロード）等があり、多色の糸を利用し絢爛豪華な糸使い模様の精緻さを特色とする。和装用帯を主力に着尺地、能、神官衣装、インテリアなどが生産されている。

大仙院
大徳寺
高桐院
龍源院
千本北大路
北大路通
船岡山
建勲神社
建勲通
堀川北大路
紫明通
小川通
鞍馬口通
千本ゑんま堂（引接寺）
庵山寺通
天神川
平野神社
寺之内通
上立売通
今出川通
中筋通
元誓願寺通
笹屋町通
中立売通
千本中立売
千本通
上長者町通
下長者町通
下立売通
七本松通
六軒町通
浄福寺通
智恵光院通
日暮通
松屋町通
大宮通
黒門通
猪熊通
蘆屋町通
堀川通
西大路通
天神通
御前通
北野天満宮
上七軒
五辻通
北野白梅町
嵐電北野線
大将軍八神社
千本今出川
堀川今出川
堀川中立売
堀川丸太町
千本丸太町
丸太町通
円町
JR山陰本線

桶屋近藤（京指物）
※訪問の際は要予約

yokoyama tatami（京たたみ）
京都を拠点に活動し伝統建築に加え、現代アートやデザインプロジェクトにおいて畳制作を手がける。畳製作一級技能士　※訪問時は要予約

家元通り
“家元通り”とも呼ばれる小川通。茶道具や建具の老舗が並ぶ。文字通り、かつて小川が流れていた。千家一族が小川通に茶室を営んだのは、その名水を求めたものという説も。

西陣の銭湯文化
西陣には船岡温泉、京極湯や長者湯など貴禄のある銭湯が残る。職人の中には住み込みの丁稚やお風呂のない長屋住まいの方も。職人の生活を支えていた。

船岡温泉

うめぞの茶房

かみ添（唐紙）

興聖寺
千利休亡き後、天下一と称された大名茶人・古田織部ゆかりの禅寺。特別公開では茶室「雲了庵」が公開され、非常に大胆に構成された「降り蹲踞」が見られる。

御菓子司 聚洸（京菓子）

水火天満宮

妙覚寺

本法寺

茶道資料館

宝鏡寺

裏千家 今日庵

表千家 不審庵

紫紘（西陣織）
着物の帯を手がける織元。製造から卸までの工程を一貫して行う。

妙蓮寺

でにむどす西陣本店（西陣織）

染殿井
雨宝院の境内にある「染殿井（そめどのい）」は、染め物に使うとよく染まることから名付けられた西陣五名水のひとつ。

石川石材（京石工芸品）

東陣
堀川通と小川通を境に11年も争った「応仁の乱」。このあたりが西陣に対して“東陣”の主将・細川勝元の邸宅があった。山名宗全の邸宅との距離は200mほど…近い！

日吉屋（和傘）
「京和傘」を手がける京都で唯一の工房。京和傘の販売のほか、予約制で工房見学やミニ和傘の制作体験なども可能。

織匠平居（西陣織）
金糸・金箔で文様を織り出す「金襴」を手がける工房。地中に織機を設置する「埋め機」で、絹糸にほどよい湿気を与え、織り上がりの風合いを高めている。※見学は京都工房コンシェルジュにて要予約

名仏の宝庫
千本釈迦堂（大報恩寺）の本堂は応仁の乱をはじめ、あらゆる戦火から奇跡的にまぬがれた市内最古の木造建築物。霊宝殿には、鎌倉時代〜南北朝時代に活躍した快慶、行快、定慶という名だたる仏師たちによる力作が並ぶ。

ゲストハウス 棲宿 西陣
古民家の構造を生かしながら、現代的で快適な空間にリノベーションしたゲストハウス。

吉村織物（西陣織）

KéFU stay&lounge
京都の日常を楽しむことをテーマにした西陣密着のゲストハウス。カフェラウンジでは、西陣にある老舗の食材や食品を中心に提供する。

三上家路地
「紋屋辻子」という通りの中ほどに「三上家路地」という路地があり、かつて西陣織の職人を住まわせていた職人長屋が残る。現在は蜂蜜専門店がある。

たくみ人形（京人形）
手作りの京ひな人形工房。職人の手仕事によって生み出される人形は、全て受注生産。

京料理 萬重

本隆寺
四方の塀に葺き替えで不要となった古瓦が埋め込まれている。とくに北側の塀は荒削りな瓦が並び、西陣の街の情緒を引き立てている。

山名宗全邸宅跡
応仁の乱で、西軍の主将・山名宗全が本陣をおいたことから、この地域が西陣と呼ばれるようになった。

有職菓子御調進所 老松 北野店（京菓子）

稲垣機料

香・蝋燭老舗 中村商店（和蝋燭）
赤いローソクの看板が目印のお香と和蝋燭の老舗。天然植物蝋を原料とした穏やかな炎の揺らめきが美しい逸品。

京表具 藤田月霞堂（京表具）

提灯のつなぎ団子
京都五花街のひとつ、上七軒。通りに下げられた提灯の模様は、上七軒のシンボルマーク「つなぎ団子」。豊臣秀吉が北野大茶湯を開いたおり、名物のみたらし団子をいたく気に入り、京都一円の茶屋株の特許を与えられた、という故事に由来する。

喫茶 静香

西陣魚新

鶴屋吉信 本店（京菓子）

西陣ひかりや（京くみひも）
「若い人にも手が届くように」と、壁一面にずらりと並ぶ組紐を計り売りや無人のセルフ方式で販売。西陣で組紐を手がける老舗「丸忠」が運営。

千両ヶ辻
今出川大宮界隈は、江戸時代より「千両ヶ辻」と呼ばれ、建ち並ぶ糸問屋や織物商が、最盛期には一日に千両の売上をあげた西陣織の中心地でした。

伴戸商店（西陣織）

西陣織会館（西陣織）
西陣織に関する史料などが揃う観光施設。西陣織の製造工程や歴史が学べるほか、着付けや手織などの体験も可能。公式サイトでは西陣織製品を生産者直通でリーズナブルに販売。

武者小路千家 官休庵

岡本織物（西陣織）
西陣では前掛けや戸張が豪華なお地蔵さんの目撃情報が多数。気になる人は高級金襴の機屋「岡本織物」のブログ「西陣の金襴織屋の金襴探し」を要チェック!

かしき造りの町家
笹屋町通、元誓願寺通は、機業店が多く、西陣でも有数の織り元が並ぶ。「かしき造り」と呼ばれる深い軒下の町家は、大事な生糸を雨で濡らさないという配慮から生まれた。

笹屋町の糸人形
明治初期から、笹屋町通の一帯で、地蔵盆のお供えとして作られた「糸人形」。「笹屋町の造り物」として西陣の夏の風物詩となり、織屋が競って各家で展示していたという。昭和43年を最後に途絶えたが、近年、北野天満宮の初詣や西陣織会館で展示されるなど復活の兆しが。

西陣くらしの美術館 冨田屋

鎧廼舎

川島商店（京提燈・京和傘）
京都五花街のひとつ「上七軒」の提灯のシンボルマークは「つなぎ団子」。地域の提燈屋さんが街の風情を支えている。

栗餅所・澤屋（門前菓子）

長五郎餅本舗（門前菓子）

佐々木能衣装（西陣織）
創業から100年以上手織りにこだわる能装束は、1着に15人ほどの職人が携わり、数ヶ月から1年かけて仕上げる。能衣装専門は、今や京都で1軒のみ。※一般訪問不可

御菓子司 塩芳軒（京菓子）

西陣京極
西陣織が最盛期の頃、給料日である毎月1日・15日は、散髪、映画館、そして酒場へという職人も多かった。ゲームセンターや甘党、焼きそば屋などがひしめいた「西陣京極」は、現在も多くの酒場が建ち並ぶ。

樂美術館

西陣産業創造會館（旧京都中央電話局西陣分局舎）

太田畳店（京たたみ）

千ブラ
最盛期には2万人の従業者を抱えた西陣織産業。メインストリートの千本通は、かつて河原町と並ぶ繁華街であり、千本通をブラブラ歩く“千ブラ”という言葉が生まれた。

有職京人形司 大橋弋峰（京人形）

弘誠堂（京表具）

竹工房 喜節（竹工芸）

マガザンキョウト

円卓

寿海 千丸店

佐々木酒造（清酒）
豊臣秀吉の邸宅・聚楽第の跡地に位置する蔵元。千利休が茶の湯に使ったといわれる「銀明水」を使用し、伝統ある酒造りを継承する。

葛西絣加工所（西陣織）
※一般訪問不可

FUDAN
民芸や骨董のうつわを使った町屋カフェ。店主は日替わりで、出張和菓子で話題の「みのり菓子」のカフェが営業する日も。

平安武久（京甲冑）

Webマップを見る

CRAFT POINT KYOTO

01 織り屋さんの憩いの場 レジェンド純喫茶の西陣考。

千本今出川の喫茶店「静香」は、現オーナーである宮本裕行さんの祖父が昭和13年に創業。喫茶店そのものがまだ目新しかった頃、京都喫茶の先駆けとして誕生した。織物産業で街が栄えた昭和中頃、西陣の中心に建つ静香を目指して、織り屋さんたちがこぞって足を運んだという。「休憩時間になると織り屋のご主人たちが珈琲を飲みに集まっていました。常連さんばかりで、この席はあの織り屋さん、ここはあそこの織り屋さんというように、席も自然と決まっているような感じでしたね」と宮本さん。珈琲がまだ珍しく高価なものだった時代。今でこそブラックも一般的だが、当時の人には苦すぎたそうで、「ミルクの量や角砂糖の個数など、常連さんの味の好みを覚えるのも大事な仕事のひとつ」だったという。

織物産業の発展とともに、河原町と並ぶほどの繁華街として賑わった西陣。最盛期には、西陣織だけでも2万人もの従事者を抱えていた。女性も貴重な働き手であったため、共働きが基本。職住一体の町家暮らしとなると、職場から学校、家族や親戚まで同僚や同業となる…。静香を含めた喫茶店は、仕事以外の時間を求めてひと息つく、今でいう"サードプレイス"だったのだろう。

祖父、叔母から継いで3代。町の様子を見守り続けてきた静香には、当時の空気が今なお息づいている。「織物産業の衰退や、かつての活気が失われつつあることは事実。時代に沿って変えるべきところは変え、みなさんがちょっとでも昔を思い出してくれるような場所であり続けたいです」。慌ただしくも活力に満ちていた、日本最大の産地の語りべとなるだろう。

一番人気のフルーツサンド。宮本さんが考案したもので、早くも看板メニューに昇格。

創業から今年で84年。3代目である宮本さんの代替わりの際、外観や内装はそのままに、入り口部分を赤色にリニューアル。町のシンボルとして新たな歴史を歩み始めた。

こだわりの珈琲は、自家焙煎のブレンドをサイフォンで点てたもの。

1 喫茶 静香
☎ 075-461-5323　上京区南上善寺町164
10:00〜16:00　水曜休(祝日又は25日営業)

02 西陣織の職人さんが頼りにする "西陣のコンビニ"がある？

機料店をご存知だろうか。西陣織に使う大小さまざまな道具を扱うお店のことで、ここ「稲垣機料」もそのひとつ。厳密には、力織機といわれる機械織りの道具を扱うお店を機料店と呼ぶそうだが、稲垣機料が扱うのは手織りの道具。織り機のほかに、縦糸に横糸を通す杼（ひ）や、糸切りハサミ、織りの繊維を見るルーペ、紡いだ糸を巻きつける糸枠など。初めて見るようなものから、なんとなく使い方が想像できるものまで、お店に並ぶ商品は約200種類にも及ぶ。西陣織の職人さんにとっては、足りないものが何でも揃うコンビニのような場所だという。

「この辺りは織り屋さんが多かったので、職人さんが作業の合間にパッと来られて『紐を1メートル欲しい』とか、数百円くらいのものをひとつふたつ買って行くような感じですね」と店主の稲垣隆太郎さん。職人さんの要望が反映された商品も多く、特に西陣織に欠かせない杼は、あらゆるオーダーの中から評判の良かったものが残っているという。地域のお客さんは減少した一方、全国から織物を手がける人が買いに来たり、観光客が店を覗くこともある。たしかに店内を見ていると、西陣織の職人ならずとも「これは家で使えるんじゃないか」と想像が膨らむものも少なくない。

西陣織に特化した道具の製造販売というと、ヨソ者からすると縁遠い気もするのだが、稲垣さんはこんな話をしてくれた。「西陣はかつての名残を含め、町のいたるところに西陣織が感じられる場所なんですよ。いきなり織物はハードルが高くても、街の散策中に機音が聞こえたり、うちのような道具の店に出会ったりというのも、意外と面白い西陣織への入り口かもしれませんね」。

明治30年代に家具の製作から始まったという稲垣機料。天井まで所狭しと並ぶ道具の数々は、用途を想像しながら見るのも楽しい。

左からルーペ、箔物を測る鯨尺つきの巻尺、糸を撚（よ）る際のおもりである静輪（しずわ）。特に静輪は、箸置きやペーパーウェイトにしたりと使い道が豊富な気も。

2 稲垣機料
☎ 075-461-0656　上京区五辻通七本松西入東柳町535
9:00〜17:00(土曜は15:00まで)　日・祝・第2, 第4土曜休

03 織物の旦那衆に育まれて。西陣の仕出し屋文化を味わう。

かつて家族総出で機を織っていた西陣では、食事を作る手間さえ惜しんで働いていた。そのため、デリバリーサービスの元祖ともいえる「仕出し屋」が、各家庭を回って毎日の食事を配達する日常があったという。

創業85年の「萬重」もそんな歴史を持つ料理屋のひとつ。若主人の田村圭吾さんいわく「家庭にガスがまだ普及していなかった当時、おかず一品ずつの配達や、その日仕入れた食材を『煮物にして欲しい』など、個々の好みに合わせた御用聞きのスタイルが一般的でした」。現在はお弁当や使い捨て容器の折詰が主流になったものの、季節や要望、用途に沿って料理や器が変化するオーダーメイドの姿勢は変わらない。「それこそが大量生産のお弁当とは違う仕出しのいいところではないでしょうか」と田村さん。西陣の仕出し屋文化は、一級品を扱う西陣の町衆たちにより育まれたのである。

季節感や用途、見た目の華やかさなどが緻密に計算された折詰。冷めても美味しいよう、煮物ひとつでも店舗で出すものとは違った炊き方をしているという。

※内容は時期によって変化。

3 京料理 萬重
☎ 075-441-2131　上京区大宮通今出川上ル
11:30〜22:00(入店19:30まで)　不定休

工芸的視点で見た西陣の歩き方

このエリアに関わりのある方に、工芸という観点から見たおすすめの 場所 ヒト モノ を聞いてみました。

小森虎機料
織物の街、西陣にとって大切な機道具店。中でも次元を超えた異空間の陰きを放っているのがこのお店。傑作掛け合い漫才が名物のおじいちゃん兄弟が切り盛りする店内は無敵です。もはやスクラップのカオス…とは言わないでください。今では入手困難の貴重な道具ばかりなのです。

10 11 門前菓子
お参りのあとに立ち寄る門前の茶店。今宮神社の「あぶり餅」、北野天満宮の「長五郎餅」に「薯蕷」。その味はいくつになっても懐かしく、その場所は幼いころの記憶をよみがえらせてくれる不思議な空間。京ことばでたとえるなら「むしやしない」もおすすめです。

15 円卓のご飯
毎日食べたくなるご飯づくりのアトリエ「円卓」は、椹木町通の京町家を改装して2021年にオープンしました。季節の食材を使った美しい見た目で、しっかりとした美味しい、旨い、「意識高くない美食」とでも言いたくなるくらい、絶妙な工芸のような食体験です。

7 西陣魚新
業界の会合で行かせていただいたことがある西陣の老舗料亭。こちらの内装・調度品が秀逸で。中でも大好きなのがノックダウン。こんな織物の活用法、目を見張りますよ。さすがは西陣。

12 旧西陣電話局
一昨年、京都国立近代美術館で開催されたブンリ派の展覧会。その会期に合わせて、旧西陣電話局本館外壁のレリーフを菓子型に起こし、和三盆のみで干菓子を調製しました。ドイツ表現主義の影響を受けた100年前の建物。当時、西陣の人はどのような思いで見ていたのでしょうか。※正式には旧京都中央電話局西陣分局舎

西陣団地
西陣織会館併設の美しく枯れゆく団地。効率的な居住建築という役割はタイムリープし、喫茶店、ビールの醸造所、アーティストが運営するギャラリーなど、新旧混在する京都文化を局所具現化したような場所はノスタルジーそのもの。もうすぐ解体されるという噂に一抹の寂しさを感じます。

8 船岡温泉
銭湯文化の街、西陣。その昔銭湯で、多くの絣職人が指先を軽石で磨いていたとは師匠談。船岡温泉の唐破風の建物は白眉。脱衣所の天井彫刻に欅間の透かし彫り、渡り廊下のマジョリカタイル…。あまりの素晴らしさに見とれ、顔面強打。私の顔に西陣の刻印が刻まれたのは言うまでもありません。

13 晴明神社
秋分の日に斎行される晴明祭は、晴明神社で最も重要とされる祭儀。少年鼓笛隊を先頭に、鉾、神輿などが500人の列が町を練り歩きます。お盆を過ぎると鼓笛隊の稽古がはじまり、9月に入ると笛や太鼓の練習が境内から地域を廻る巡行に。季節のうつろいも子供たちの成長も感じる行事です。

16 寿海 千丸店
旨い安いアットホームな大衆酒場で地元住民の強い味方。オリンピックセットで始まり、〆は鍋焼ラーメンで決まり！メニューや価格、空間、接客…、もうこれ以上変えるところが思いつかないくらいひとつの完成された民芸・工芸のような仕上がりを感じます。

9 葛西絣加工所 葛西郁子さん
西陣織の品種のひとつ、「西陣絣（にしじんがすり）」の絣加工を行う職人。着物や帯を手がけるほか、「イッセイ・ミヤケ」のコレクションに関わるなど、業界でも注目を集める。

14 塩芳軒 高家啓太さん
1882年創業の老舗和菓子店・塩芳軒の5代目当主。景観重要建造物・京都市歴史的意匠建造物にも指定された町家の店舗で商いを行う。著書に「京菓子のしおり」（淡交社）。

17 マガザンキョウト 岩崎達也さん
「泊まれる雑誌」をコンセプトにした宿泊施設・マガザンキョウトの代表／編集長。町屋を改装した空間で、雑誌の特集のように毎シーズンさまざまな企画を展開する。

04 西陣織のイメージが覆る？ 出会い方・買い方、広がっています。

西陣織産業に変化が生じている。SNSや動画配信などの積極活用から消費者のニーズを汲み上げた 個人規模でのお誂え、着物以外の斬新なプロダクト開発など、新しい動きが続々。

中でも、SNSを積極的に活用しているグループのひとつが「N180(ニジジン・ワンエイティ)」。西陣織の企業3社がタッグを組み、沈降している和装産業をものづくりの力で「180度ひっくり返す」ことを団体名に込めている。メンバーの今河織物の今河宗一郎さんは「西陣織は決して安い買い物ではないので、お客さんとの接触回数を増やすことが大切。織物の街として100年後も地域の人たちが誇りを持てる環境を残したい」と話す。西陣織の源流は、遠く古墳時代にまで遡るというから…この180度をもってして何周目なのだろうか。そして、まだまだ始まったばかりなのかも。

YouTubeで 職人のリアルをお届け。

チャンネル登録者数19万人の着付け講師・すなおさんが、京都きもの市場とタッグを組んで、吉村織物など西陣織の工房をまわり、謎過ぎる制作現場を紹介する動画が話題に。熟練の技術や飛び交う専門用語などに知的好奇心をくすぐられる。

4 吉村織物
☎ 075-432-0251　上京区寺之内通千本東入二筋目下ル銚子北町788
一般見学要予約

一生着られる ウェディングドレスに。

イタリアと京都の二拠点で活動する大河内愛加さんがデザイナーをつとめる「renacnatta(レナクナッタ)」の「一生着られるウェディングドレス」は、西陣織のセットアップスタイル。文字通り、結婚式を終えても袖を通せるよう特別だけど大げさすぎず、トップスとスカートに分けて着用できるためカジュアルダウンもできる。京都の金彩作家とコラボし、イタリアのシルクに金彩を施した耳飾りも人気。

※「一生着られるウェディングドレスII」の受注期間は終了しました。

renacnatta
店舗はなくネットや受注会で購入・注文が可能

着物好きが絶賛。 こういうの欲しかった！

今河織物の新しい着物ブランド「きものirof(いろふ)」。現代の女性の体格に合わせて手間なく美しく見える、季節や用途を問わない、楽に結べて緩まないなど、気軽だけど品のある帯をはじめとした楽しい小物を提案。消費者の声に向き合った商品で、西陣織へのハードルがグッと下がる。

5 今河織物
☎ 075-461-1212　上京区五辻通七本松西入東柳町558　10:00〜16:00　月曜休、年末年始休　来店は要予約

職人の手仕事を、足元に。

着物姿の足元には欠かせない草履の鼻緒をスニーカーにすげ替えた「HANAO SHOES」！鼻緒ズレせず、たくさん歩けるからと着物好きにも愛用者が広がっているのだそう。販売しているのは、京都の職人とのコラボやセレクト商品を扱う「Whole Love Kyoto」。西陣エリアでは「でにむどす西陣本店」で購入が可能。

ちなみに西陣織の鼻緒も受注生産で可能。

6 でにむどす 西陣本店
☎ 075-417-5290　上京区西柳町289
13:00-16:00　日・水曜、祝日

Whole Love Kyoto
☎ 075-744-6152　左京区田中東高原町40　11:00-19:00　予約制営業

05 支自町そのものが大工場、営業カルチャーがえる西陣ムラ。

西陣織といえば、カシャンカシャンと鳴り響く機織りのイメージが強いが、図案を描く人、糸を撚る人、仕上げを行う人など…20を超える工程が存在し、それぞれが専門のスペシャリストによって分業されている。最盛期に比べて生産量は10分の1になったものの、それでも約200社、2000人の従事者を抱える京都屈指の地場産業であり、西陣は"街全体がひとつの工場"とも言える。豊田市や日立市のような企業城下町をイメージしてみると西陣という街を理解しやすい。ただし企業ではなく、その多くは自営業。家族ぐるみで働いているケースも少なくない。

また、職人たちのクライアントである織り屋さんも同じ地域に住み（発注者と受注者が同居している産地は全国的にも珍しい！）、エリア内で仕事が完結するBtoBのビジネスモデル。「職場も学校も家庭にも仕事相手がいる」なんてことも珍しくなく、必然と"内の人"との関係を密にせざるを得ない。

そんな地域性をムラ社会に重ねて「西陣村」なんて冗談混じりに言う人もいるが、そのぶん地域の結束力は並大抵ではない。自営業ゆえに地区の集まりも平日OK、区民運動会はどこよりも盛んで激しい…という噂も。切磋琢磨してきた個々の技術力と、お互いに顔が見える世界で培った団結力が、西陣織という優れたブランドを保ってきたに違いない。

編集：池尾 優、竹内 厚、bank to　デザイン：猿田真緒(bank to)　撮影：津久井珠美